

Data set-6/#2

同じく中央通りの歩道上。人間から見ると似たような歩道の石のテクスチャでも、SIFT キーとしては異なる表現になるので、このように歩道部分でも照合が行える。



Data set-6/#4

さくら通り上での照合結果。この時間帯ぐらいになると、入力画像のほうが暗く、夕方に近づきつつあるため光量が減っていることがわかる。



Data set-6/#3

さくら通りの、左側の建物で照合が取れた例。入力画像、参照画像候補とも右側に歩行者がいたため、右側の建物や看板が利用できない状況である。このような状況では回答不能と返答することが多いが、この例ではたまたま左側の建物が歩行者カメラの視野に入ったため、照合結果が得られた。



Data set-6/#5

同じくさくら通り上での照合結果。光量変化があっても、それが一様な変化であれば比較的本手法での照合への影響は限定的である。



Data set-6/#6

同じくさくら通り上での照合結果。



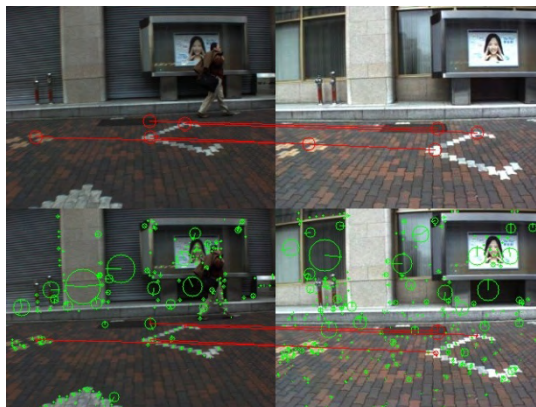
Data set-6/#7

同じくさくら通り上での照合結果。Data set-4/#2 と同様に、自動販売機をもとに照合が成立している。



Data set-6/#8

外堀通を渡り終えた地点。Data set-4/#4 ではポスタ部分が参照されたが、歩行者のため、ポスタ部分の SIFT キーは参照画像候補の SIFT キーと合致していないと見なされている。その代わりに、このサンプルでは路面のパターンを利用して照合に成功している。



以下は 2 月 20 日の実験における地下街での照合の様子である。地下街では地上と異なり、店のディスプレイ変更や掲示物の変更が頻繁なため、地上より側面付近の情報を利用できることが少ない傾向がある。その代わりに、天井の照明やその他の器具が作るパターンが照合に寄与している例がよく見られた。光量もそれほど変化しないため、天井が特徴的なところでは照合は比較的良好

れた。

